

うつのみやまちづくり市民会議 議事録

会 議 の 名 称	市民会議（第 15 回生活環境整備分科会）
開 催 日 時	平成 18 年 12 月 18 日（金）午後 6 時から 8 時
開 催 場 所	宇都宮市役所 5 階入札室
出 席 者	（市民委員）塩田会長，上田副会長，太田委員，武井委員，増田委員，三宅委員 （事務局）
会 議 内 容	・施策事業の詰め
会 議 資 料	1. 第 15 回資料
発言者	発言内容
進行	それではこれから第 15 回分科会を行います。今回の分科会では，市の部会から出された質問に対する対応と，施策事業の残りの部分を検討します。
各市民委員	<u>質問①</u> ・平日と休日では目的地が違ふことが予想されますが，この調査は，いつ（平日 or 休日）の目的地を把握することを想定されてますか。 ※過去のパーソントリップ調査で，マイカー利用を目的別で分類すると，通勤手段としての利用が多く，現在の朝夕の交通渋滞から判断しても通勤手段としての利用が多い状況にあります。 ・また，この調査結果をどのように活用することをイメージされていますか。 <u>回答①</u> ・平調査の時間帯：平日の朝，昼，夕方，休日は日中であればいつでも。 ・調査結果活用イメージ：プロット調査と市全域のゾーニングをレイヤーで重ねて路線をデザインするための調査。 <u>質問②</u> ・歩いて暮らせる生活圈を基本としたゾーニングデザインの具体的なイメージについてお聞かせください。 ・また，ゾーニングを具体化するための取組内容についても，イメージをお聞かせください。 <u>回答②</u> ・前提として，コンパクトシティ化がある。生活拠点が複数できることが前提。その生活拠点内で歩いて暮らせるということを意味している。生活拠点の範囲は，「施策事業提案発表会資料 P5 概念図」の地区市民センター単位を想定している。

質問③

- ・現在、本市の主要な交通結節点である J R 宇都宮駅東西や東武宇都宮駅、及び中心部の市営駐輪場の 4 箇所でレンタサイクル事業を実施しており、利便性向上策として、貸し出し場所の拡大が課題となっておりますが、これまでの検討の中で、サイクルステーションの設置箇所選定の考え方について、具体的な検討があれば、お聞かせください。

回答③

- ・4 箇所から借りて借りた所に返すのではなく、市内の乗り捨て可能なエリアを決め、乗り捨てられるようにすることを意図している。借りられる拠点そのものは4拠点以上に増やす必要はないと考えている。回収作業は、別途業者が行う。乗り捨てる場合は別途乗り捨て料金を払う。

質問④

- ・バス会社の同士の乗換えフリーの具体的イメージ

回答④

- ・乗車の共通カードを用いて利便性を高める。

質問⑤

- ・要介護者事業の具体的イメージ

回答⑤

- ・改造介護バスによる大量輸送を狙った事業。一般的な介護車両はワンマン、ワンボックスが多いが、これでは観劇等を見に行くことができない。交通弱者の移動障壁を除去する目的。
- ・タクシー会社の介護車両を使わず、大量輸送できるバス会社の車両があると、美術館等に今まで行けなかった方が行くことができる。

質問⑥

- ・外環状線をラインとしたパーク & バスライドの推進の具体的イメージ

回答⑥

※あくまで全体計画の中に位置づけられるので単体の事業として議論することは難しいと認識している。市の公共交通システムの中に位置づけられる、いわゆるパークアンドライドのイメージである。

質問⑦

- ・ストックを利用した都心居住の実践的推進の事業概要にあります、「情報発信」、「入居者をライフスタイルモニターとして生活イメージの情報発信」については、誰が、どのように行うことを想定されていますか？

回答⑦

- ・民間の不動産業者がメディアを上手く使って行う。行政としては、民間事業者の情報発信の側面支援（他地域の地方紙への掲載等）を行う。

質問⑧

- ・「景観評価づけ」に対して、評価基準の考え方や評価項目のイメージをお聞かせください。
- ・また、地域割りについてはどのように想定されていますか。

回答⑧

- ・全ての地域に A ランクから E ランクまでの評価を行う。基準・評価項目は現時点では具体的な案はない。(今後検討が求められる)
- ・自治会単位で行い、そこから地区市民センター単位での評価づけというのが現時点での考え。

質問⑨

- ・「景観教育」について、「景観に関する地区計画」というものは、どのようなイメージを想定されていますか。※まちづくり計画のようなものを想定されているのでしょうか。
- ・受講対象者の年齢層について、想定があれば、お聞かせ下さい。

回答⑨

- ・エリアを決めて地区計画を決めるのではなく、緊急性やアピール度が高い区域（駅前等）や景観建物となりうる建物・エリアなどの、街を特徴づける建物や景観がある場所について、景観を保全する方向性を示す計画を作成する。（どのようにそのエリアの景観を保全・創造するかを定める）
- ・小中学校＝義務教育課程において景観教育を組み入れる。小学校・中学校校区単位で地域ぐるみで学習をかねた景観現況把握とテーマ・ルールづくりを行う。例えば、子供たちが地元を知り、誇りが持てるよううつのみや百景ツアーを学校のクラス単位で実施できる体制を作る。

質問⑩

- ・「大谷石バンク」のシステムのイメージをお聞かせください。
- ・大谷石材と基金の関係については、どのようにお考えですか。

回答⑩

- ・大谷石バンクのイメージ：使わなくなった建物に使われていた石は、通常は粉化されるが、大谷石については価値を認め、行政が再利用できる形でストックしておく。
- ・基金とは、上記バンクの運営のための基金である。

質問⑪

- ・教育の観点から、景観をどのような位置付けで捉えようとされているのか、お聞かせください。
- ・また、参考とされた事例等がありましたら、教えてください。

回答⑪

- ・景観教育は、「景観とは」、「景観は保全していく」、「景観は新しく創っていくものである」ということを認識させるためにある。

進行	<u>質問⑫</u> ・「地域ぐるみ学習」の受講対象者の年齢層は、どのように想定されていますか。 <u>回答⑫</u> ・地域の全ての層を対象とする。単位として、老人会、学校等を活用する。 <u>質問⑬</u> ・「助成制度の策定」について、制度の内容や対象者、また制度創設の効果については、どのように想定されていますか。 <u>回答⑬</u> ・景観形成のために必要な問題提起・巻き込みや住民合意形成活動に対して、一定の基準を満たした活動体に対して助成を行う。 ・対象は、上記活動を行うボランティア。 <u>質問⑭</u> ・ISO普及委員の活動イメージや、地域間競争の状況づくりについて、想定があれば、お聞かせください。 <u>回答⑭</u> ・ISO普及委員が各学校に対して取得のPRを促す。 ・学校間で半期又は1年に一度活動成果を一堂に会して行うことで競争意識を促す。 <u>質問⑮</u> ・「まちづくり統括機関」の設置について、想定されているイメージについてお聞かせください。 ※メンバー構成、配置バランス等 ・市民の視点による評価のポイントについて、どのようにお考えですか。 <u>回答⑮</u> ・メンバー構成・配置バランス：行政の担当部・担当課，市民会議から担当する分科会の委員を同数で構成。 ・設置の意味・狙い：各施策の進捗状況と成果のチェックを行い，次のアクションへの協議をする組織と位置づける。 ・定量的な目標を市民の視点で設定すること。行政と市民で異なる視点という意味は，内部評価に終わらないという点である。 【積み残し施策・事業の検討】 「住環境，コミュニティの整備」について，施策事業を整理する必要がある。 →年内に事務局まで施策事業を送付
----	--

進行	【指標設定について】 重点目標，上位指標について整理するため，指標設定資料を会長へ送付。 【市への依頼事項】 2月の合同会議は，事前に市の施策事業案を見せて頂きたい。また，議論する場所についても，会議形式ではなく，分科会単位で話しやすい場所で議論したい。話し合いも，一人が話して全員が聞くのではなく，施策単位で数人ずつで個別に話せばよい。 次回の日程は1月22日（月）18時からです。場所は後日ご連絡いたします。以上で第15回の市民会議生活環境整備分科会を終了します。
----	---